

和と洋の花開く街・奈良

第二回

奈良県内の町や村には、たくさんのお地藏さんがおられる。

錫杖を手に、片足を一步前に踏み出して、いつでも駆け出す用意をされているお地藏さんもうらつしやる。そのお地藏さんのまなざしは、いったいどこに向けられているのだろうか。

かつて日本の（少なくとも関西の）夏の風物詩のひとつは、地藏盆だった。町内の人がみんな一緒に、あたりをくまなく掃除した。みんなでお着替えを用意して、色とりどりの布や提灯で、とてもきれいに飾り付けを施すところもあり、町によってさまざまなお地藏盆のかたちがあった。でも、子どもが主役のおまつりということだけは、どの町も同じだった。山のように積まれたお供えのお菓子は、すべて集まってくる子どもたちの手に渡った。両の腕いっぱいにお菓子を抱えた



荒井 敦子
Atsuko ARAI

奈良県大和郡山市生まれ。声楽家。日本音楽療法学会認定音楽療法士。NPO法人音楽の森理事長。大阪音楽大学声楽科卒業後、放送・教育方面の職歴、難民キャンプや障がい者施設でのボランティア経験を生かし多彩な音楽活動を展開。まつぼっくり少年少女合唱団を結成し世界の都市での公演や合唱指導を通じた国際交流、また県下のわらべ歌採譜に尽力し、町と村の交流に努めている。1993年「サントリー地域文化賞」受賞。共著に『歌の力』（永六輔、荒井敦子著 PHP研究所）。その他、創作ミュージカルや校歌等の作詞作曲作品多数。コロナ禍では、「森への贈り物」として寺社への音楽奉納を行い、昨年「ARTS for the future！」事業に採択され、コンサートを開催。

私たちを、お地藏さんはきつと目を細めて見ておられたことだろう。

子どもの成長を祈ることが、その土地土地のコミュニティを作り上げ、お地藏さんを扇の要のようにして人々をつなぎ、絆を作ってきたのが、実はお地藏さんであること。こうして、私たちの「ふるさと」は、できているのである。今では、めっきり子どもの数が少なくなり、お年寄りが集まって地藏盆の準備をされ、たくさんのお菓子が供えられている。ふるさとの村や町のコミュニティのあり方も変わり、日本人が大切にしてきたお地藏さんが中心となり成立していた地域の繋がりが、砂漠化していくようで、とても不安である！と思っているのは、私だけであろうか？

10年前の7月23日地藏盆の宵縁日に、母が92歳で突然旅立った。「まつぼっくり少年少女合唱団」の合宿を霊山寺さんでさせて頂き、最終日に子どもらと本堂のお地藏さんにお参りして帰宅すると、母はすでに息を引き取っていた。どうして母がお地藏さんの日に亡くなったのか？と思わぬ日はなかった。母は、浄土真宗の家で育ち、東大寺・二月堂の観音さまを信仰し、日頃から正信偈も般若心経も唱えるほど信心深い人ではあったが、お地藏さんとの関係は長い間わからなかった。ところが最近になって、ひよんなことから母の実家にお地藏さんが祀られていることを知った。詳しい経緯は

わからないが、何代か前の御先祖様がかなり歴史のあるお地藏さんを迎え入れ、それ以来お祀りしているとのことだった。母は子どものころから、このお地藏さんに守られてきたのかもしれない。そして、お地藏さんに導かれて旅立ったのだろう。そんなことを知ったのが10年目の母の命日の10日前のこと。三年前から、創作ミュージカルとして取り組んできた、室生三本松のお地藏さんが私に気づかせて下さった。母とお地藏さんとの仏縁の有り難さであった。

そして昨年の母の命日の翌日、私は三本松の安産寺にいた。創作組曲の奉納に寄せていただいたのだ。この安産寺には、400年ほど前、室生寺から川を流れて、ここに着いたと伝えられるお地藏さまがおられる。村人は流れ着いたお地藏さまを運び、お堂を建ててお祀りし、毎日交代で御世話をし、子どもの無事を願いつづけた。私の指導する「音楽の森むろうコース」の勝井富子さんから教えてもらった昔話を、私は「川を流れてきたお地藏さん」というミュージカルに仕立てたのである。そしてその翌年、合唱団の組曲にして、安産寺で奉納した席に、室生寺の座主さま（網代智明さま）がお越しになった。網代さまには組曲の監修をしていただき、ご臨席もお願いしたものの、現実にお地藏さんの前で掌を合わせておられるお姿を見ると、感動のあまり体が震えた。何しろ、お地藏さんがここ

に着かれて以来400年、初めての室生寺さまからのお参りなのだ。その歴史的な感動は、もう筆舌には表わせないものがあつた。

「長年の地域の皆さまの、お地藏さまに対する親身の御世話に、深い感謝と心からの敬意を表します」という網代座主さまのお言葉の前に、「私たちの人生の中でも山も谷もある様に、お寺の歴史にも山や谷もありました。ずっとお参りをさせてもらいたかつたお地藏さまにお目にかかれて、本当に嬉しいです」と、座主さまのお人柄が溢れるお言葉に胸が熱くなった。

このときばかりは涙があふれ、組曲の指揮をしていた私だった。これが7月24日の地藏会の御縁日、母とお地藏さんの関わりを知った10日目のことだった。

「三本松のお地藏さん」は組曲となり、旅に出ているだけ準備はこれで整った。400年以上も前から、そのおつもりだったのか、この櫃かぶの木のお地藏さんは、なんと杵を穿いたお姿になっている。ミュージカル(2020.2.奈良市ならまちセンター)のお披露目は果たしたものの、その後の出立の日は、なかなか決まらなかった。例に漏れず小癩なウィルスのせいである。いたずらに時間が過ぎていくもどかしさはあつたが、一方で冷静に頭を整理する期間にもなつた。ミュージカルは練習時間も制作費用もかかり、同時に配役も

装置も大がかりになる。これでは「場」も「機会」も制約される。ここで師の永六輔さんの言葉が浮かんだ。「大きな会より小さな会。小さな会をたくさん開くことがその町の文化のバロメータ」。それでちよつとコンパクトな「合唱組曲 お地藏さんからのメッセージ」の形にシェイプアップすることにした。

この組曲、お寺で奉納させてもらいたいのも、「音楽の本来は、神仏への奉納、これで原点に戻る」と、お地藏さんがおっしゃっているような気がした。

これをまず初めに奉納させて頂けたのが吉野山金峯山寺(2021.3)、昨年10月17日には「奈良県ユニセフ協会設立20周年記念の集い(東大寺金鐘ホール)で上演できた。ユニセフは世界190の国・地域で子どものための活動を展開している。そこで「お地藏さんからのメッセージ」を合唱でき、感無量の思いである。

子どもの健やかな成長を祈ること。それは地域や国、宗教や宗派の違いに関係のない、人間共通の願いだ。地球のどこにも同じ子どもへの願いがあつて、その祈りが仏教世界では地藏菩薩の姿をかりて、身近なところで辻のお地藏さんと呼ばれるのだろう。

東大寺の管長 狭川晋文さまが、「日本全国の村や町の色々な所で、仏さまを守って下さっているお年寄りの姿が多い。でも高齢化という波に押されて、守りきれなく

なつた地域では、仏さまの行方が心配されている所が多いのも確か。そんな中、三本松のお地藏さんが、地域の方々が大事に守り続けてこられたお姿は貴重！荒井先生、ええこととしてはるなあ、どんどん伝えてあげてや！」との励ましのお言葉をもらい、俄然ファイトが湧いてきた私であつた。

三本松の自治会の中で、お地藏さんの保護委員会が設けられていて、自治会長が保護委員長を兼務(勝井宏次会長)されている。川を流れて来られた9月9日をお縁日とされて、毎月9日が、皆さんがお参りして般若心経を唱え、一般参拝ができる日となっている。お掃除は、毎週堂内を徹底的に水厳禁でふき掃除！お地藏さんを大切に大切にされている様子を聴かれた網代座主さまは、心より喜ばれ、400年ぶりの法要で、地元の方々に感謝を述べられた！という訳である。

日本全国至る所におい出になるお地藏さんには、必ずやそれぞれの物語があるはず。メッセージがあるはず。音楽に携わる私は、組曲という形を選んだが、方法は何でも良い。お話しとして伝えても、文章で綴っても、とにかく地域とお地藏さ

んについて、伝わっていること、知っていることを語ってほしい。残してほしい。そして、今こそ、この混乱している時代のヒーローとして、全国各地のお地蔵さんに登場してもらい、幼きもの、弱きもの、小さきものである子どもたちを守るメッセージを、私たちに伝えてほしい！ 切に願う！

私の組曲が、そのお役に立つことができるのなら、きつときつとお地蔵さんも喜んで下さることでしょう。

私はここでお地蔵さんへの思いを書きたいことがたくさんある。これまでのこと、これからの夢もたくさん語りたい。だが、そこをぐつと堪えて他日に譲り、ここでは「合唱組曲 お地蔵さんからのメッセージ」のシナリオを読んでいただきたいと思う。

室生村三本松のお地蔵さんの話をできるだけ多くの人に聞いて欲しいという、溢れんばかりの思いがあるからだ。大きなお寺から離れて流れ着いたお地蔵さんが、村の人々の手厚い御世話で400年もの間美しいお姿を保ち続け、今も地元の方々信仰を集めて、子安地蔵として子どもたちをお守りになっている。このことを今の時代だからこそ、皆さんに知ってほしい生命の教えである。

(本文、以上)

森への贈り物コンサート——祈り——

日時 令和3年(2021) 12月12日
会場 檀原神宮(神宮会館)
主催 NPO法人音楽の森
協力 檀原神宮・音楽の森あらいあつこオフィス
後援 奈良県・檀原市・檀原市教育委員会

これを至福の時間というのだろうか。

荒井敦子さんと音楽の森ファミリーの素敵な歌と音楽に、不覚にもうとうとしたようだ。

こんな夢を見た。

遠い遠いむかし、昇る日に向かって舟を出した人たちは、森に包まれた列島の美しさに息をのんだ。その鮮烈な印象は、海をわたった始祖の記憶を、いつしか垂直立ち上げて、子孫たちに天からの降臨と記録させた。始祖の顔にあたった波のしびきは、このとき、子孫を包む雨にかわった。やがて子孫も日の昇る方向に向かった。始祖のように。だが今度は自分の足で。風のそよぐ原野を拓き、田の一枚一枚に綺麗な区切りを入れた。稔りの大地は「檀原」と名付けられた。

夢から覚めると、歌は「ふるさと」にかわっていた。

コンサートは2022年も開催される。

連絡先は音楽の森H.A <https://ongakunomori.or.jp>

(文・中島敬介)



創作ミュージカル

「川を流れてきたお地蔵さん」より

合唱組曲

お地蔵さんからのメッセージ

脚本・作詞・作曲： 荒井 敦子

監 修： 網代 智明（室生寺座主）

スーパーバイザー： 高橋 浩

* * * * *

語りA

皆さんこんにちは

今日は皆さんに お地蔵さんの歌とお話を聞いていただき「つ」と思っております
そのお地蔵さんとは 室生三本松の子安地蔵菩薩さまの事です

赤ちゃんのようなお顔で とても美しい おだやかな表情をしておられます
でも体つきはがっしりとしたのもしく 右足をかかるといふ宝珠をお持ちです

左の手にはあらゆる願いをかなえてくださるという宝珠をお持ちです
菩薩さまなのに お坊さんの姿をして 苦しむ人を救いに急ぐお地蔵さん

千年あまりの間 人々を見守ってこられた 本当に本当に 美しい菩薩さま
なのです

語りB

お参りする時は「オン カーカーカ ビサンマエー ソワカ」とお唱えいたします

オンは「心からの祈り」を カーカーカは「笑い声」を表します
微笑みをたやさないお地蔵さんのことです

ビサンマエーは「驚くような力の持ち主」といふ お地蔵さんをたたえる
呼びかけです

そしてソワカは 神聖なことばのしめくくりで「かなえたまえ」という意味
を表します

オン カーカーカ ビサンマエー ソワカ
とっても素敵な言葉ですね

語りA

地元三本松では 昔からの習わしで このようにお唱えいたします

オン カーカーカビサンマエーソワカ オン カーカーカビサンマエーソワカ
オン カーカーカビサンマエーソワカ オン カーカーカビサンマエーソワカ
オン カーカーカビサンマエーソワカ

語りB

もともとお地蔵菩薩さまは 古代インドの原語サンスクリット語では

「クンティ・ガルバ」とおっしゃいます

「クンティ」は私たちが住んでいるこの大地、「ガルバ」は母胎または赤ちゃん
という意味だそうです

大地が 母胎のようにすべての命を育む力を持っていることから 苦しんで
いる人々を その限りない大きな慈悲の力で 包み込み救う者 という意味
から名付けられたそうです

そして 大地を「地」、母胎は「蔵（くら）」と漢字に訳されてジソウ（地蔵）
と呼ばれるようになりました

語りA

お釈迦さまが入滅されたのち 大いなる慈悲を持ったお方

弥勒菩薩さまが この世に生まれて み仏になるまでの

56億7000万年という 気の遠くなるような長い間

わたしたちの世界に現れて
人々をお救いくださる菩薩さまとされています

お地蔵さんは不思議な仏さまです

わけへだてなく すべての人々を それも弱きものをまず第一に

よりそいながら 地獄のはてまで 救いに向かう菩薩さま

それゆえ 昔から身分や老若男女をとわず信仰されてきました

オン カーカーカ ビサンマエー ソワカ

M1 「お地蔵さまはヒーロー」

（オンカカカビサンマエソワカ）

オンカカカ「ハハハ」ビサンマエソワカ オンカカカ「ハハハ」

ビサンマエソワカ

オンカカカ「ハハハ」ビサンマエソワカ オンカカカ「ハハハ」

ビサンマエソワカ

かなえたまえ 幸せ運が 笑顔の仏 お地蔵さま

私たちを救い 声高らかに 誇らしげに 笑っておられる

オンカカカ「ハハハ」ビサンマエソワカ
オンカカカ「ハハハ」ビサンマエソワカ

お地蔵さまは私たちのヒーロー

お地蔵さまは私たちのヒーロー

オンカカカ「ハハハ」ビサンマエソワカ オンカカカ「ハハハ」

ビサンマエソワカ

オンカカカ「ハハハ」ビサンマエソワカ オンカカカ「ハハハ」

ビサンマエソワカ

語りC

みなさん、お地蔵さん、こんにちは 今日私ら二人が「室生三本松の村を
長あく見守っている者」という設定で、この物語への案内役を務めさせていた
だきます

村人1 優しい笑顔のお地蔵さんやなあ
村人2 なんか、微笑んでほるみたいや
村人3 こんな綺麗なお地蔵さん、初めて見たわ

2. この村の宝として守らにやいかん
よいしょよいしょ よいしょよいしょ

村人1 もうひと踏ん張りや！

全員 よいしょ！

村人4 頑張れ！

全員 よいしょ！

よいしょよいしょ よいしょよいしょ

村人1 ちよつとこころで一服しようか

村人4 せや、

村人3 そうしよ、

村人5 そうしよ、

村人2 せやけど、お地蔵さんなんで川を流れてきはったんやろ？

M 4 「美しい姿のお地蔵さま」

1. 美しいお姿 なんて綺麗なお顔

見たこともないような ありがたいお地蔵さま

どこから来られたのか 長い旅をして

この村にたどり着いた ここは三本松

2. どんな訳があったのか 知らないけれど
川に流されて やつて来たお地蔵さま
どこから来られたのか 長い旅をして
この村にたどり着いた ここは三本松

村人1 ほな、もうちよつと上まで運ばしてもらおか

村人4 あれ？動かへん！

村人2 ひよつとしたら、お地蔵さん、「ここがええ」とおっしゃてるんやないけ？

村人1 「ここでお地蔵さんを祀れ！」いっお告げかもしれんや

村人3 そうかもしれんな それやったら、「ここにお堂を建てようや

せや！どんな訳があったか知らんけど、これは村の宝やで！

村人1 さすが村の宝やなあ 重たいけど、いやあやつぱり立派なお地蔵さんやなあ

村人4 それにしても、もう動かへんなあ

全員 あーしんど！

語りC こうして、このお堂は「新堂」と呼ばれるようになりました

語りD 以来、この村ではお地蔵さんを大切にお祀りし、皆が毎日交代でお世話をす
ようになりましたんや

子どももお願いごとやと言つては足を運び、御礼やと言つては、お供えをして
おりました

語りC なんとか子どもができるように、毎日拜みに来る若い嫁もおりました
そしてやつと、かわいい赤子が授かりました

M 5 「子守歌」

ねんねんころりよ おころりよ

寝た子のかわいさ 起きて泣く子のつらくな

ねんねんころりよ おころりよ

寝た子のかわいさ 起きて泣く子のつらくな

語りC ある時、いつも元気な子どもがえらい熱を出してもた！
父親も母親もオロオロして、朝に夕にお地蔵さんに手を合わせました

お地蔵さんは、毎日必死に頼みに来る親の願いを・・・聞いてくれましたた
なんでも、その子は「お地蔵さんが助けに来てくれはった」と言つたそうす

語りD 村では雨をつかさどる龍神さんを頼りにしておつた。そうは言つても、日照り
が続いて雨が降らんこともあつたそうな
食べる物ものつてひもじい思いもしたやろ
それでも子どもが元気に遊ぶ声聞いたら、苦労なんかどっかへ行つて
しまつたわ

語りC (元気がよく) ほんまやな

M 6 「龍神さまのうた」

1. 龍神さまのおかげで 田んぼや畑に雨が降り

乾いた大地に雨が降り (雨が降り)

稲穂も実つて米になる (米になる)

うちの暮りしも楽になる (楽になる) 楽になる

2. 龍神さまのおかげで 田んぼや畑に雨が降り

乾いた大地に雨が降り (雨が降り)

稲穂も実つて米になる (米になる)

村には笑顔が戻つてく (戻つてく) 戻つてく

龍神さまのおかげや 龍神さまのおかげや

龍神さまのおかげだ

村人4 龍神さん、おおきに、ありがとう！

全員 龍神さん、ありがとう！

村人1 さあー、みんな働んで！

全員 よっしゃー！

M 7 「生きること」

1. 生きることは食べることに 食べるためには働くこと

働くことは米をつくること 米をつくるのは誰のため

子どもがすくすく育つてくれるように 大人は汗を流す

子どもの笑い声 遊ぶ声は 皆の宝 村の宝

村人1 さあ、働んで

村人3 子どものためやで

村人4 村のためやで

村人2 よっしゃ

全員 働こ、働こ！

2. 宝を守ることはむづかしいこと 守るためには働くこと

働くことは米をつくること 誰かがそれを見ている

お天道さまだけが知つている うちの苦しみ 辛さを

汗と涙を流した分だけ 喜びが来ることを教えてくれた

その喜びが何かを覚えてくれた それは子ども 村の宝

その喜びが何かを覚えてくれた それは子ども 村の宝

語りA この村はお地蔵さんを要として、皆が心を通じ合えるようになりましたんや

語りB さて、ここからは、皆さんを明治の時代にお連れしたいと思います

全員 「ご一新！ご一新！ご一新！

語りB 明治時代に流行った言葉、ご一新！ご一新！

そう言うて古いものは捨てて新しいものへ
外国に負けじと日本は戦争の道を選びました
我が子を遠い戦地に送り出す親の想い
それはそれは、辛いものがあつたに違いありません

語りA そら、そらやで。自分のお腹を痛めて産んだ大事な我が子、
手塩にかけて育てた息子

M8 「母の嘆き」

こんなな大きく立派に育った私の息子よ お国の為お前が命懸けて頑張ると
一生懸命育てた たった一人の息子よ
母はお前を誇りに 思つて流すこの涙

出征兵士 母さん、今まで育てていただき、ありがとうございます

一生懸命育てた たった一人の息子よ
父も 母も お前を 思つて流すこの涙

語りA やがて、明治は終わり、時代は大正・昭和・平成・今や令和…

語りB その後もいろいろなことがあつた いつの時代も、子を想う親の気持ちは
変わらへん

子どもA 私たちは2年間、お地蔵さんの歌を歌ってきました

子どもB お地蔵さんに会えると憂鬱な日でも今日はいい1日になると思えるよう
になりました

子どもC お地蔵さんは、とても親しみやすい存在だと思えます。私たちにとつて、
一番身近な仏様かもしれません

子どもA お地蔵さんがいつも近くにいることを知つて、とても心強く
思えるようになりました

子どもB この、お地蔵さんのミュージカルや組曲を通して、普段あんまり意識して
なかつた『命の大切さ』を改めて実感できたよね。それもお地蔵さんの
大きな御心のお陰やと思うねん

感謝して、歌おう！
子ども（全員）歌おう！

M11 「大地はお地蔵さん」

大地はいつでも支えている 大地はいつでも見守っている

大地は生命の生みの親 あらゆる生命を慈しむ

大地の姿はお地蔵さん 大地育む お恵みは？
生命の数だけあるんだよ 数えたら きりがないんだよ

お地蔵さんって呼んでごらん お地蔵さん どこにいるの
呼ぶ声聴いて たちまちにお姿現す 大丈夫
大丈夫ってお地蔵さん 大丈夫はお地蔵さんのこと

お地蔵さんの笑い声 お地蔵さんの高笑い
ハハハ ハハハ！ 誇らしげに
笑う姿のお地蔵さん 必ず助けに来てくれる
優しい笑顔で包んで下さる

それをこのお地蔵さんがずっと見て、守つてくれてはつたんやな

語りA ほんまやなあ ありがたいなあ

全員 （明るく）お地蔵さん、よう来てくれはつたなあ

M9 「川を流れてきたお地蔵さん」

お地蔵さんがやってきた 雨が激しく降る晩に
龍神様に連れられて 川を下つてやってきた
村人たちは驚いて みんなでワッショイ 運んだが
もうこれ以上は 動かない ここは中村 三本松

お地蔵さまの言うことによ ところが私の心はなやなじゃ
みんなが笑顔になるように 私はここにやってきた

子安地蔵と慕われて みんなに愛され守られて
長い年月幸せに 語り継がれるお地蔵さん

語りB めでたしめでたし、となるはずやつたんやが、
思いがけない病に、世界が今も混乱している

語りA 私らにできること、もつとあるのと違うやろか

語りC 自分の周りの、大切な人たちと今まで以上に心を繋いでいく

語りD 希望を持ち続け、地に足つけて、しっかりと一歩一歩前に進んでいく

村人1 ご先祖様が残してくれた宝を、誇りを持って子どもらに伝えていく。

村人2 せや！ほんまに忘れたらあかん！

村人3 生かされることに気付き、感謝できれば、きつと

語り5 みんなの幸せに繋がる

村人2 お地蔵さんに手を合わせることによつて、ちゃんと自分を見つめる

このシナリオは、本センターが著作権者（荒井敦子様）の
許諾を得て掲載しているものです。複製、転載、転用等を
ご希望の場合は、本センターまで事前に二報いただいたら
まうお願いいたします。

連絡先 奈良県立大学ユーラシア研究センター
〒900-8205 奈良市船橋町10番地
TEL 0742(93)7245
Mail nara-eurasia@nrapu.ac.jp